

「お米と母に支えられた水泳人生」

俵木 空

大会の日、母は4合の米を炊く。それは私の水泳の大会の為だ。なぜなら私は大会の時ほとんどご飯しか食べない。理由はお米は消化が良くて、エネルギーになるのが早く競技をするのに最適だからだ。そのため母が朝早くからお米を炊く。お米だけで私が飽きないように朝はリゾットやぞうすいなど温かいものを間食のおにぎりや牛食違う味に工夫をしてくれていている。おにぎりは熱いうちに8から10個も握ってくれらる。だから私が大会で食べる時は冷めていているが、母の気持ちがかもっていて、食べる時もやるぞ」と気合いがはいっている。そして応援されているという気持ちになる。また、泳ぎ終わった後に食べると結果が良い時も悪い時もまずほっとしたような気持ちになり次に、次のレースも頑張るぞという気持ちになる。

そんな風に水泳の大会のたびに10年間お米を炊いてくれた。だから私の水泳人生はお米と母に支えられてきた。母が炊いてくれるお米は、市内の親せきが作ってくれたものだ。小学五年生の時、学校で米作りの授業を受けた時、田植えの手伝いをさせてもらった。一つ一つの作業が丁寧で見ているとお米を愛情をこめて育てている事が分かった。その時お米作りの苦勞や大変さを、気を付けている事などを教えてもらった。

私はお米が美味しい理由が分かるような気がした。毎日、食べている柏崎のお米を私は一番美味しいと思う。この美味しいお米を作ってもらえる事に感謝をして、ご飯を頂きたいと思う。だが、悲しい事がある。来年から私はこのお米を食べられないのだ。なぜなら、お米を作っている親戚が今年で田んぼをやめてしまふからだ。理由は親戚が腰を悪くした事と田んぼを受け継ぐ人がいないからだ。

私はそれを聞いて、学校で習った後、後継者不足の問題を実感した。学校で習った時は、いまだ自分の周りでお米を作っている人がいて、実感が湧かなかった。しかし、親戚が米作りをやめると聞いた時、その問題を始めて身近な問題として捉える事ができた。私は自分が美味しいお米を当たり前に食べられていた事に気付いた。

私は、応援する気持ちのこもったお弁当と愛情をもつて育てられたお米によって私の水泳人生は支えられてきた。今、日本のお米は農家の後継者不足やTPPで外国の安いお米が入ってくる等色々な問題がある。私は最初にはTPPで外国の色々な美味しいものがくると思い悪くないんじゃないかと思っただ。しかし、安いお米が入ってくる事により、日本のお米が大変になるかもしれないと知り、考えが変わった。世界の美味しいものも良いが、日本のお米、地元のお米がいつまでも安心して食べられる事が私は嬉しい。

私は今、受験生でもうすぐ中学生最後の大会を迎える。その日はまた母が朝早くから私の為にお米を炊いてくれる。

来年、高校生になって水泳を始めた時に母はまたお米を炊いてくれるだろう。お米は私を元気づけてくれる。その時に食べるお米が地元のお米だと良いなと私は思う。

日本は「お米の国」だ。農家の方が美味しいお米を作ってくれている事がとてもありがたい事だと思う。そのお米は私達の心も体も

成長させてくれる。

これから私も私は日本のお米、地元のお米を食べ頑張っていきたいと思う。そして農家の方々やまいおにがりを作ってくれる母に感謝を忘れないでいきたい。